

7月の大雨による災害特集

未曾有の大雨が町を襲う 大規模な浸水被害・断水が発生



磯ノ目では全域的に道路が冠水。多数の床上浸水被害が発生しました。



水位が増す中屋敷橋付近での馬場目川の様子。



湯ノ又地区では、内川川の越水により道路が冠水しました。



坊村橋では護岸コンクリートブロックが倒壊。

7月14日午後から断続的に降り続いた雨は15日午前にピークを迎え、14日から15日の総雨量は、アメダス五城目観測所で151.5mmを記録しました。

町は、14日午後1時に災害準備室を設置。大雨警報・洪水注意報が発表された翌15日には、午前6時に災害警戒対策室を設置した後、午前8時に「警戒レベル4 避難指示」を全町に発令し住民の避難を呼びかけました。そして同日午前10時に災害警戒対策部を設置するとともに、正午には内川地区に「警戒レベル5 緊急安全確保」を発令。その後、正午過ぎには、馬場目川の水位が氾濫危険水位を上回る3.5mに達し、内川川でも3層以上の水位の上昇を確認。午後1時に災害対策本部を設置し、午後5時には全町を対象として「警戒レベル5 緊急安全確保」を発令しました。

氾濫した河川の影響により各地で冠水や土砂崩れが起き、道路が一時通行止めとなりました。また、多数の住家・店舗が床上・床下浸水に見舞われるなど、町内各地でこれまでに類を見ないほどの甚大な被害が発生しました。

また、15日の午後4時頃、五城目浄水場では施設内に大規模な浸水がみられたことから、設備の運転を停止しました。復旧作業が続いた16日から23日までの間、一部地域を除き全町域に渡る断水となり、住民生活に大きな影響を及ぼしました。

町では現在も、被害状況の把握および被害に遭われた皆さまの復旧・復興支援を続けています。